

平成30年9月13日

平成30年夏期における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成30年夏期(7～8月の2か月間をいう。以下同じ。)における山岳遭難は

○ 発生件数 721件 (前年対比 +110件)

○ 遭難者 793人 (前年対比 +88人)

うち死者・行方不明者

71人 (前年対比 +3人)

である。

過去5年間の夏期における山岳遭難発生状況をみると、今年は、夏期の山岳遭難として統計の残る昭和43年以降で、発生件数が最も多く、初めて700件を超えた。また、遭難者数は平成27年以降700人を超えて推移しており、高止まりの状態にある。

(2) 都道府県別の発生状況

山岳遭難の発生件数を都道府県別にみると、長野県が117件、次いで富山県と静岡県で68件であった。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者793人について、目的別にみると、登山が610人(76.9%)と最も多く、次いで観光65人(8.2%)が多い。

態様別にみると、道迷いが179人(22.6%)と最も多く、次いで転倒が169人(21.3%)、病気が120人(15.1%)となっている。

(2) 年齢層別

遭難者793人のうち、40歳以上が627人(79.1%)、60歳以上が367人(46.3%)となっている。

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

○ 登山計画の作成

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配慮し、余裕のある安全な登山計画を立てる。

計画を立てるときは、滑落等の危険箇所を事前に把握する。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書の提出

作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、道迷い、滑落等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～5においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1 概要

(夏期)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
						構成比
発生件数(件)	583	647	660	611	721	
遭難者数(人)	699	782	753	705	793	100.0%
死者・行方不明者	52	65	48	68	71	9.0%
死者	48	61	45	56	54	6.8%
行方不明者	4	4	3	12	17	2.1%
負傷者	310	342	357	330	359	45.3%
無事救出者	337	375	348	307	363	45.8%

注:夏期とは、7～8月の2か月間をいう(以下同じ)。

発生件数等の推移

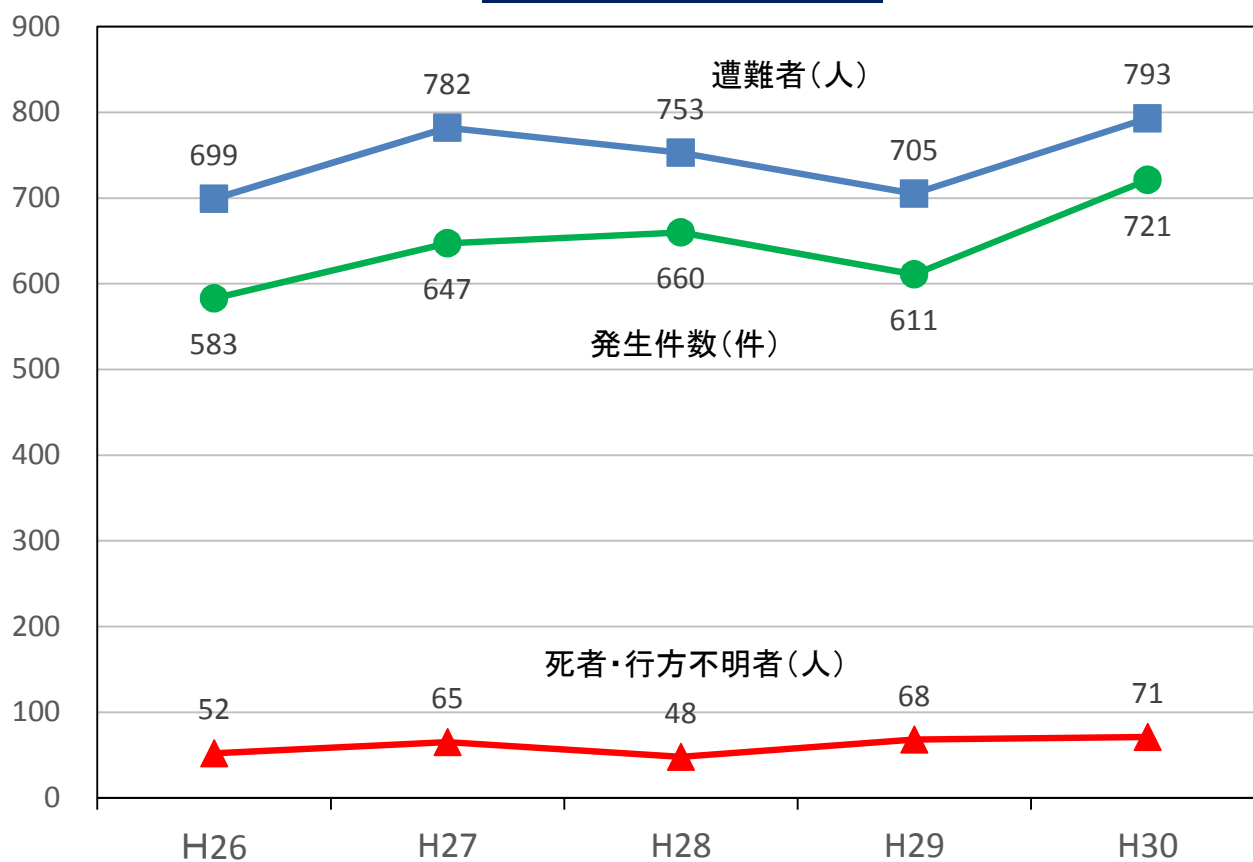


表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(平成30年夏期)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	30	32	1	1	17	13
青森県	3	3	1			2
岩手県	4	4			1	3
宮城県	4	4			2	2
秋田県	6	6	2		3	1
山形県	26	39	2		16	21
福島県	19	19	1		12	6
東京都	26	26	1	1	17	7
茨城県						
栃木県	7	8	1		4	3
群馬県	38	40	1	1	27	11
埼玉県	9	10			3	7
千葉県	1	1				1
神奈川県	25	29	1	1	6	21
新潟県	41	44	3	2	18	21
山梨県	55	62	8	2	26	26
長野県	117	121	14	4	59	44
静岡県	68	75	3	2	36	34
富山県	68	71	1	1	44	25
石川県	20	20	2		9	9
福井県	1	1				1
岐阜県	20	21	3	1	7	10
愛知県	6	7			2	5
三重県	10	14	1		4	9
滋賀県	18	18	1		12	5
京都府	5	6			1	5
大阪府	6	7			2	5
兵庫県	24	30	1	1	9	19
奈良県	13	13	2		8	3
和歌山県	1	1			1	
鳥取県	9	9			2	7
島根県	3	3			1	2
岡山県	1	1			1	
広島県	2	2				2
山口県	1	1			1	
徳島県	1	1				1
香川県	1	1	1			
愛媛県	4	6			3	3
高知県						
福岡県	5	5	1		1	3
佐賀県	2	4			1	3
長崎県	2	2				2
熊本県	5	7				7
大分県	7	11	1		1	9
宮崎県	2	2			2	
鹿児島県	2	2				2
沖縄県	3	4	1			3
合計	721	793	54	17	359	363

表3 目的別山岳遭難者

(夏期)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	572	662	610	577	673	84.9%
登山	526	625	559	527	610	76.9%
ハイキング	24	9	21	26	31	3.9%
スキー登山	1	1				0.0%
沢登り	16	18	22	18	25	3.2%
岩登り	5	9	8	6	7	0.9%
山菜・茸採り	10	25	10	16	6	0.8%
その他	117	95	133	112	114	14.4%
観光	66	63	83	61	65	8.2%
作業	13	6	13	11	10	1.3%
溪流釣り	8	7	12	12	10	1.3%
写真撮影	5	4	1	1	6	0.8%
自然観賞		1	3	1	3	0.4%
山岳信仰	5	2	4	10	2	0.3%
狩猟				1		0.0%
スキー						0.0%
その他	20	9	17	13	15	1.9%
不明		3		2	3	0.4%
合計	699	782	753	705	793	100.0%

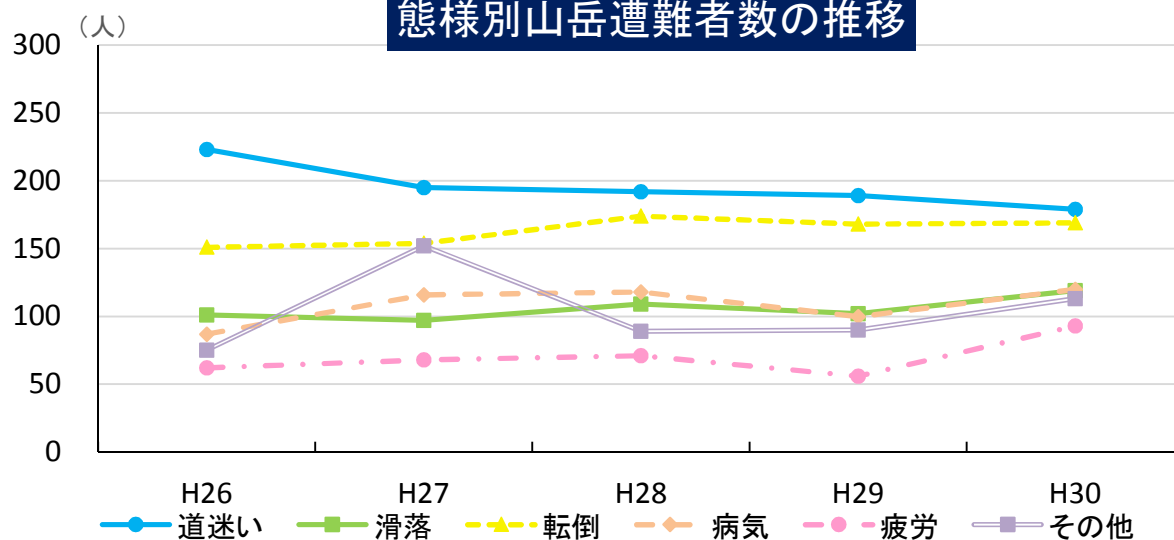
注：平成28年に「その他」から「スキー」を分離。

表4 態様別山岳遭難者

(夏期)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	223	195	192	189	179	22.6%
滑 落	101	97	109	102	119	15.0%
転 倒	151	154	174	168	169	21.3%
病 気	87	116	118	100	120	15.1%
疲 労	62	68	71	56	93	11.7%
そ の 他	75	152	89	90	113	14.2%
転 落	15	26	24	18	25	3.2%
悪 天 候	7	9		3	15	1.9%
野生動物襲撃	9	14	7	6	2	0.3%
落 石	7	8	5	11	6	0.8%
雪 崩						0.0%
落 雷		1				0.0%
鉄 砲 水		34	1			0.0%
有 毒 ガ ス						0.0%
そ の 他	28	52	45	33	45	5.7%
不 明	9	8	7	19	20	2.5%
合 計	699	782	753	705	793	100.0%

態様別山岳遭難者数の推移



態様別山岳遭難者構成比の推移

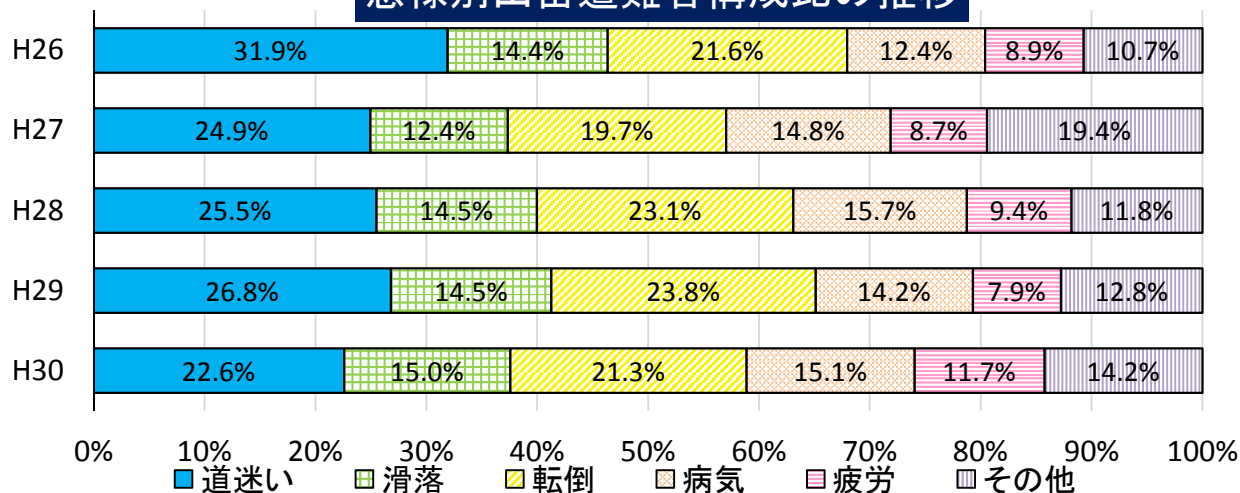
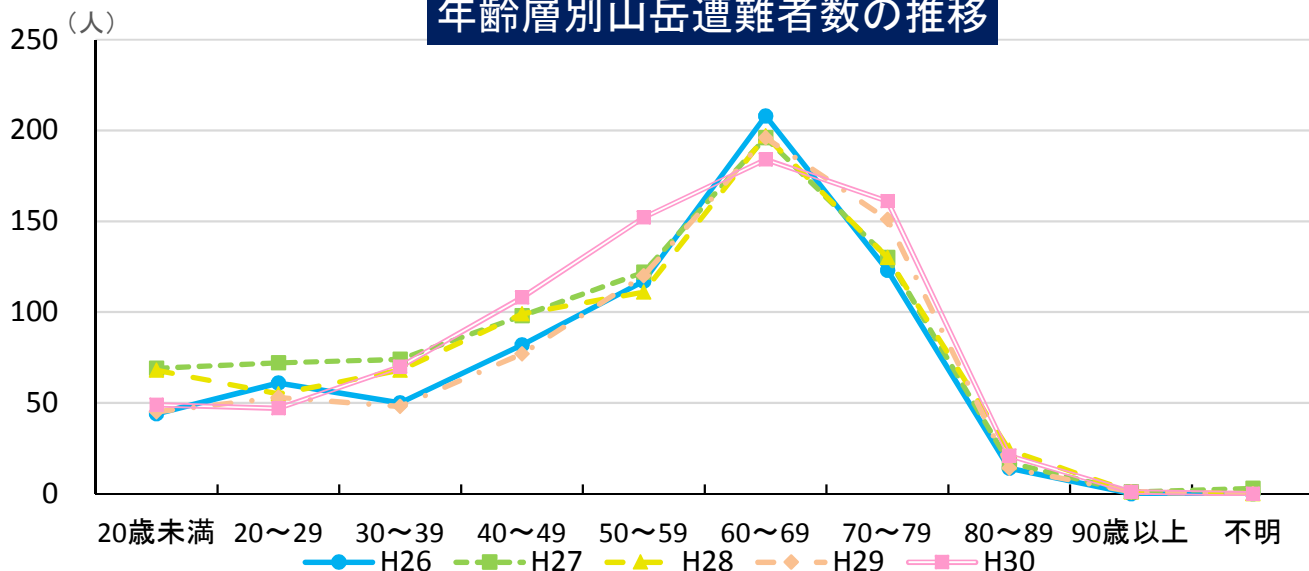


表5 年齢層別山岳遭難者

(夏期)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	
	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	44	69	68	45	49	6.2%
20～29	61	72	55	53	47	5.9%
30～39	50	74	68	48	70	8.8%
40～49	82	98	99	77	108	13.6%
50～59	117	122	111	120	152	19.2%
60～69	208	196	197	196	184	23.2%
70～79	123	130	130	151	161	20.3%
80～89	14	17	24	14	21	2.6%
90歳以上		1	1	1	1	0.1%
不明		3				0.0%
合計	699	782	753	705	793	100.0%

年齢層別山岳遭難者数の推移



年齢層別山岳遭難者構成比の推移

